

01 北里大学 大学院

飯塚 達也 さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

奨学金受給前の経済状況はアルバイトをしながら最低限の生活ができていた状態でした。1週間の内4日は大学院で研究活動に励み、2,3日はアルバイトで学費や生活費を補っていましたが、平日5日間はアルバイトをせずに生活することができるようになりました。

今までアルバイトに充てていた時間で研究の活動をするのができ、博士課程での新しい研究に挑戦できています。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

人は外界からの情報の8割以上を「視覚」から得ています。視覚は、様々な学問・業界と密接な関係があります。私の専攻でもある医療としての「眼科学」、省エネだけでなく、眼に優しい光の開発を行う「照明工学」、運転時の視認性などの交通安全としての「交通工学」や「人間工学」など多種多様です。

そのため、視覚に関する知識は応用の幅があることから、奥深い学問であると知り、今日まで多くのことを学ぶに至っています。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

日本の交通事故件数は、年々減少傾向ですが2022年は300,839件で、依然として社会的な課題といえます。私はこの課題を解決するために、「視覚」と「交通安全」を融合させた研究で貢献したいと考えています。なぜなら、運転者の視覚は、運転能力に直結するため、視覚の質を向上させることは事故リスク低減に繋がります。

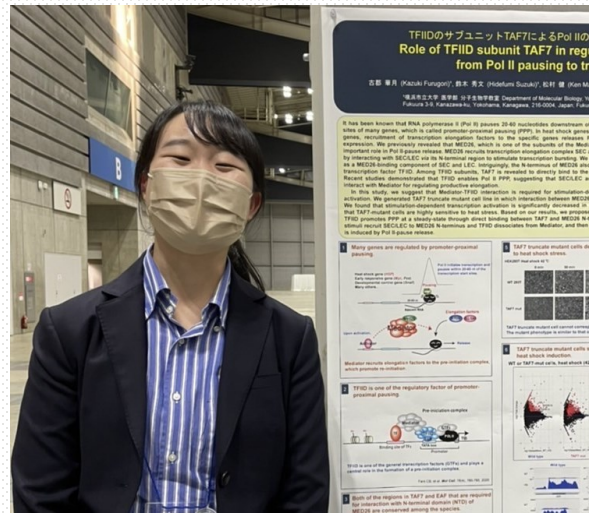
近年のヘッドライトはとても明るく安全性が増していますが、夜間の眩しい光による眼不快感が増えています。こうした背景から、眩しさを軽減し、視覚機能を確保できるレンズや照明の開発に携わりたいと考えています。また、運転者だけでなく、歩行者の安全性を確保するためにも、視覚特性を生かした視認されやすい安全服の開発を行い、視覚から交通事故対策に尽力できる研究者を目指しています。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

視覚の学びは奥が深く、数えきれない課題があります。あなたの学んだことが医療だけでなく、社会全体に還元される非常に奥深い学問です。

02 横浜市立大学 大学院

古郡 華月 さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

研究を行いながら、平日にアルバイトをして収入を得るということは時間的に難しいため、土日にアルバイトをしています。しかし、研究を進める上で土日も研究活動に時間を割きたいと考え、時間的にかなり忙しくなってしまいます。

その中でこちらの奨学金をいただけるとなると、時間的にも経済的にも余裕が生まれ、落ち着いて研究に取り組むことができるようになりますと期待しております。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

ヒトの細胞を使い、明らかとなっていない現象の仕組みを解明することで、ヒトに対する治療法や薬を開発するヒントを得ることができるのではないかと考え、現在所属する研究室で研究を始めました。

中学生の時に家族が難病を患い、治療が難しいとされる疾患を身近に存在するものとして実感したことも医療分野の研究を目指すことになった理由の一つです。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

当初は転写という現象に興味があり、研究をしたいと考えていたのですが、研究を進めていく上で転写に関わる疾患やさらに疾患の中で膜構造を持たない転写の場の形成異常が生じるということを知りました。

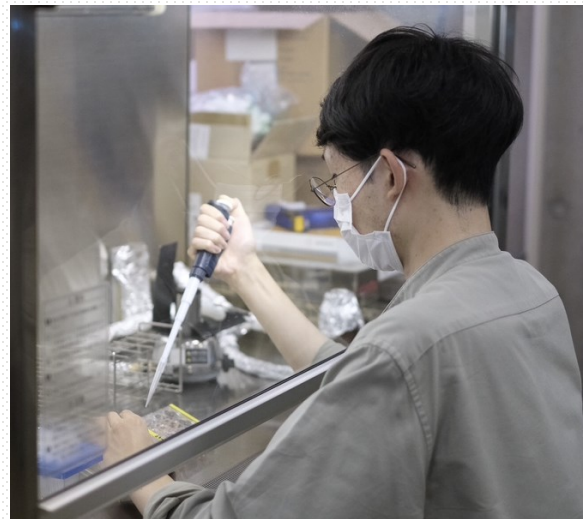
現在、液滴形成による転写の活性化や転写のスピード調節などについて研究を進めており、疾患の原因解明や創薬開発に繋げていけたらと考えています。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

日々新しいことを学ぶことができ、毎日が刺激的です！

03 東海大学 大学院

櫻川 智広 さん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

大学を卒業した後に大学院で研究を行うとなると、学生の期間が長くなることで金銭面での不安を感じることがあります。一方、研究に打ち込むには時間が必要でアルバイト等との両立も難しいと感じます。

そのような現状が本奨学金の給付を受けることで解決され、今まで以上に集中して研究活動に取り組むことができるようになると期待できます。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

大学では理学部で学んでいましたが、卒業研究を探していた時に今の研究室(医学部 生体防御学 免疫学教室)の先生に巡りあい、医療分野で学んでいくことになりました。

医療分野での基礎研究は自身の研究していることの医学的、社会的な意義を考える場面が多く、人に伝える力を伸ばすことにもつながっていると感じています。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

私は、ある遺伝子の機能を一つ一つ解析するという非常に地道な基礎研究を行っています。しかし、このような一見地味に思えるような基礎研究の蓄積により医療分野が大きく発展してきたことも事実です。

私自身の研究も新たな治療や創薬の足がかりとなるような研究へと発展させていきたいです。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

日々やりがいを感じられる分野だと思いますので、頑張ってください。

04 東海大学

N・Hさん



当奨学金を受給して、研究や学生生活にどのような変化を期待しますか

今回の機会を通して今一度医師としての社会的役割を考え直す機会になり、ただ学問上だけではなく将来を強く意識した学びをするようになりました。例えば、入学当初に自分自身がなぜ医師を志したのかを見つめ直し、医学に対する学習態度を見つめ直す機会になりました。

医学を学んでいると、勉強の難解さに目的意識が曖昧になりがちですが、このような機会は1つの目標になるので大切だと思います。

医療分野を学ぼうと思ったきっかけや、志望した理由を教えてください

初めは両親の影響で医師を目指しましたが、社会人経験を通し再度医師という職業を意識するようになり、医師になりたいという想いを改めて自分自身のことと強く感じる事ができました。

私が社会人だった時、さまざまな場面で医療の重要性を感じる事がありました。その地域に則した適切な医療が地域社会を支えることがわかったので、それがどのような医療か常に考え続けられる医師になりたいと思います。

現在学んでいること・研究を、将来どのように活用していきたいですか

大学で学んだ医学を今までの経験を活かし地域に還元していきたいです。

同じ分野を目指す後輩に一言、お願いします

医学を習得することは簡単なことではありませんが、医師になりたいという目的を意識していれば必ず到達することができると思います。一緒にがんばりましょう。